新たな国立公文書館建設に関する基本計画（概要）

平成３０年３月３０日
内閣府特命担当大臣決定

令和元年１０月１６日
国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議（第24回）資料
内閣府大臣官房公文書管理課

資料２－２

建物の概要

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）

建物：地上３階地下4階程度

総建物面積：約42,000㎡

←憲政記念館・駐車場を含む面積

工事費：約480億円

（什器等諸費用を除く。）

工期：約８年半

※　現時点の試算であり、今後の物価変動、詳細検討により変動する可能性がある。

設計に当たっての基本的な考え方

国立公文書館

＜**世界に誇れる国民本位の施設**の実現を目指す＞

- **公文書の重要性を象徴**するような空間づくり
- 我が国の歴史と伝統を踏まえた**品格ある外観**
- 様々な世代の人々に利用される拠点としての利便性に配慮

憲政記念館

- 現状の利便性の維持
- 現在の建物が有する歴史的価値を尊重し、ビルディングエレメントや単位空間の活用や再築を検討

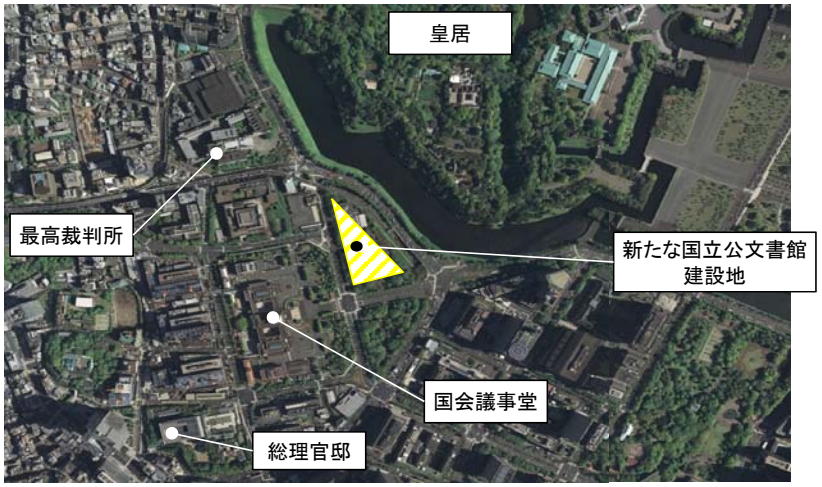
独自性への配慮

- 両館の異なる歴史と役割、立法府と行政府の独立性に鑑み、それぞれの特徴を踏まえた機能配置・外観
- とりわけ**外観については両館の独自性が充分表現されるよう**配慮

利便性及び合理性

- 両館が一緒に建築されるメリットを活かし、共同使用部分については機能的な調整を図り、全体として**合理的な施設**とするとともに、**来館者の利便性向上を図る**工夫を行う

新館のポイント

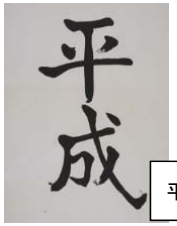


国の三権が集中する**最高の立地**を活かし、
広い世代の国民に「国のかたちや国家の記憶」を伝える

日本国憲法
（御署名原本）

日本書紀
（現存最古の全巻揃い）

徳川実紀
（御実紀）



平成の書

新館での機能拡充により、極めて**幅広い年代の所蔵資料**をさらに活用、文書の原本＝「本物」に触れる体験を提供

（今後の検討）
- 音声・映像等の多様な資料や先端技術を活用した展示手法
- 所蔵資料に合わせた効率的な書架形式やＩＣＴの活用を通じた文書管理技術　等

修復が必要な劣化資料の例

日本国皇太子殿下並びにデンマーク皇太子同妃両殿下の特別展御視察

修復・デジタル化等の先端技術を活用した**国内のセンター拠点**
人材育成や情報ネットワークを通じ**国際的な情報センター拠点**としても機能

新館建設後の国立公文書館（３館）の体制

新館

歴史公文書等の保存・利用等の取組推進拠点
基幹的業務を担い、３館の連携の中心的な役割
多くの国民が利用する展示・閲覧を中心とした総合的施設

主な機能	主な諸室	面積（目安）
展示・学習	展示室、体験支援室　等	約2,400㎡
	現状：420㎡（北の丸）→**約６倍**	
調査研究支援	閲覧室、参考資料室　等	約1,500㎡
	現状：340㎡（北の丸）→**約４倍**	
保存	書庫、修復作業室　等	約10,000㎡
	現状：14,940㎡（北の丸・つくば）→3館合計で**約２倍**	
デジタル化	複製物作成室　等	約600㎡
	現状：専用スペースなし→**新設**	
交流	エントランス、来館者用スペース　等	約700㎡
	現状：専用スペースなし→**新設**	

他に執務室・廊下等の諸室を備える。

北の丸

国内外の行政官等向け研修等を実施する学習拠点と研究者向け書庫

※　経年による老朽化への対応策を必要に応じ検討。諸機能を適切に果たせるよう、施設の在り方について長期的な観点から検討。

つくば

受入れ機能を集約するなど保存機能（書庫等）に特化

工事期間中の憲政記念館仮施設

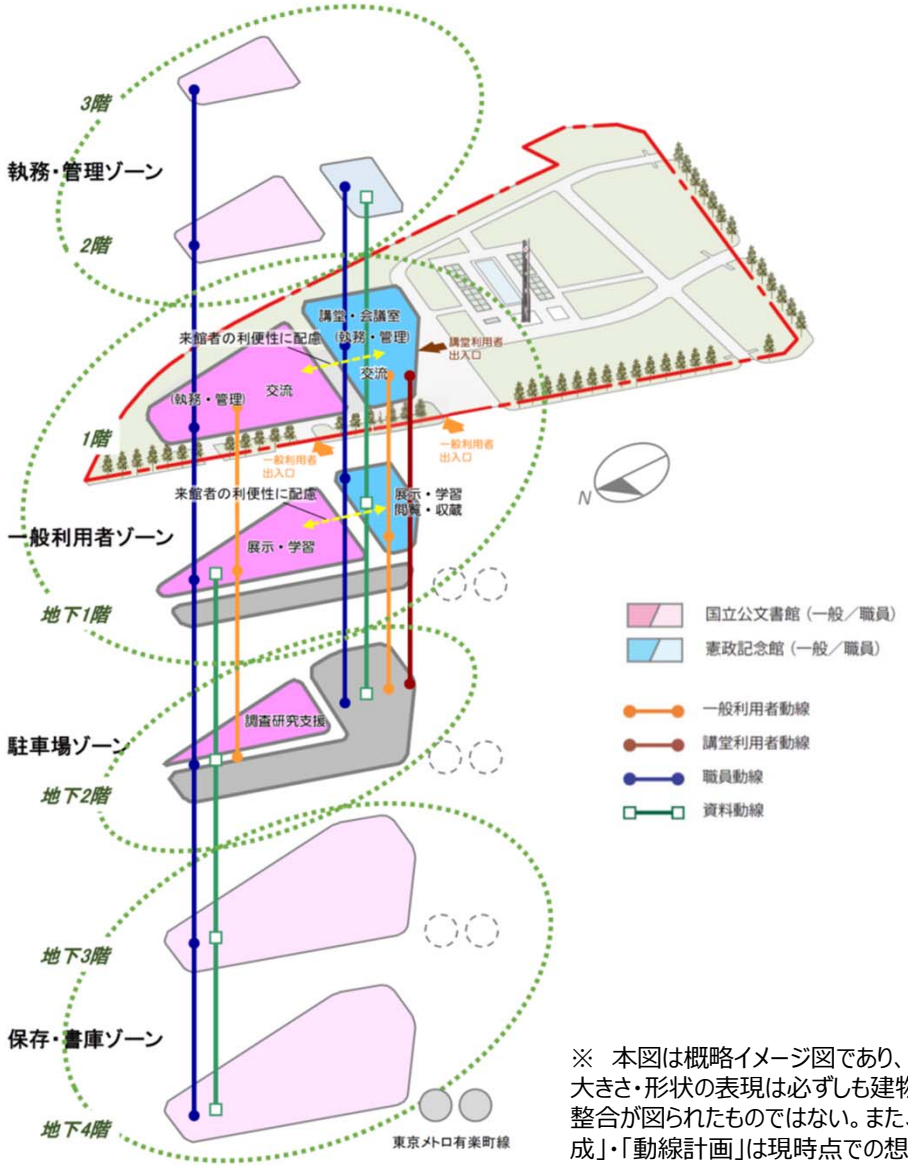
場所：千代田区永田町1丁目8-1等
（国会参観バス駐車場北側）
使用期間：遅くとも2021年度から工事に着手、
新たな施設完成時まで使用
主要諸室：会議室、展示室、収蔵庫、事務室

今後の進め方（予定）

2018年度～　基本設計→実施設計
2021年度～　建設工事
2026年度　　施設完成・開館

階層構成・動線計画のイメージ

【一般利用者の移動距離をコンパクトにしたパターン】



※　本図は概略イメージ図であり、各ゾーンの大きさ・形状の表現は必ずしも建物面積等と整合が図られたものではない。また、「階層構成」・「動線計画」は現時点での想定であり、今後設計の進捗に応じて詳細を検討する。